

【HLPFに対するご提案 1：日本がSDGs先進国になるために】

取り組みを継続すること、未来に向けた約束（メッセージ）を強調するべき

◎ 継続的な円卓会議等の実施、市民参加（参画）について明記すべき
国内課題・国際協力の視点から、国家戦略策定と課題別等の枠組みとを両輪で回す「市民参画を保障した枠組み」を**継続的に保つべき**。

⇒紹介されている事例はいずれも「国際協力」。国内課題に対する日本のコミットメント、**市民参加は弱い。この弱みの克服の明記**は必要

◎ 課題先進国である日本の重要施策をSDGs中心に組み替えることを明記すべき
現状は、既存の国家戦略、枠組み等にSDGsを組み入れたのみ。
事実、円卓会議参加の各省担当は国際担当ばかり。各省の国内担当へのインプットはSDGsの主流化につながる。

⇒「組み入れる」でなく「組み替える」と記すことで、**各省庁におけるオーナーシップを醸成する**べき。

【HLPFに対するご提案 2：日本がSDGs先進国になるために】

課題「解決」先進国になるための取り組みを強調するべき

◎ 日本が「弱い」とされている課題についての対策を明記するべき

ドイツのベルテルスマン財団の評価（2016年）によれば**日本のSDGs達成状況は18位**であり、「貧困」「ジェンダー平等」「エネルギー」「気候変動」「生物多様性」「パートナーシップ」が**「弱い」**とされた。

⇒実施指針で記載されたように、この**「弱い」とされた分野についての今後の対策、克服のための枠組み作り**についても言及するべき。

◎ 日本がSDGs先進国になるための積極的かつ大胆な「変革」を提案するべき

実施指針および付表において140の具体的な施策が定められたものの、いずれも数値目標がない、もしくは不十分である。

⇒先駆的な目標設定や予算措置によって、他国のモデルとなるような大胆なチャレンジができるはず。**課題先進国から課題「解決」先進国になるための実践**をおこなうことを宣言してほしい。

【SDGsの地方展開について：地方から日本を変革するために】

地方での実践からボトムアップでSDGsを達成していくための土壌作りを

◎地方（地域）活性化の核にSDGsを取り入れていくべき

課題先進国である日本のあらゆる課題が地方（地域）にある。

一億総活躍、地方創生、地域包括ケア、わが事まるごと…乱立する施策を、SDGsの包摂的概念で統一し、省庁横断的な枠組みと予算を作る必要がある。

⇒「地域円卓会議」の実施や、SDGsに基づく地域作りや計画策定をおこなうことが、自治体のインセンティブになるような予算措置を講じるべき。

◎先進事例（グッドプラクティス）の表彰、各自治体への紹介をおこなうべき

⇒SDGsに基づく地域作りや計画策定のモデルとなるような事例を広報する。

◎SDGs推進本部の事務局を外務省中心から国内部門統合事務局へ

地方（地域）での施策や計画作りは外務省の専門外。各省庁横断型の統合的な事務局を設置し、予算措置含めてSDGsの普及啓発に尽力すべき。